

平成23年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

- 1 日時 平成24年3月16日（金）午後1時30分～
- 2 場所 考古博物館（風土記の丘研修センター）
- 3 出席者（敬称略）
 - （委員） 堀内邦満、三井久美子、小川はるみ、大隅清陽、椎名慎太郎、谷口一夫、齊藤洋子、鈴木郁子、廣瀬はるみ 9名
 - （事務局） 金子館長、八巻次長、保坂学芸課長、学芸課員3名、総務課員2名
 - （教育庁） 学術文化財課員1名

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議事
- (4) その他
- (5) 閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1) 平成23年度考古博物館経過事業について
- (2) 平成24年度考古博物館予定事業について
- (3) その他

6 議事の概要

- 平成23年度経過事業に関する質疑等

(委員)

「わたしたちの研究室」の研究内容のレベルがかなり高く、中身が濃いものだった。子ども向けの事業として、年々成熟してきている。単発で開催するイベントとは異なり、未来へつながるイベントとして評価できる。

(委員)

総利用者数のうち、イベント関係の参加者がかなり増加しており、これが展示の観覧者数の増加につながっている。

一方、研修センターの利用者数が落ち込んでいる理由は何か。

(事務局)

資料の利用者数は2月末時点の数値であり、3月のイベント（風土記の丘望見展）が加算されていないことが原因である。

(委員)

ことぶき勸学院の生徒が考古博物館を利用した場合、単位を取得できるのか。

(事務局)

講座等の終了後、証明印を押している。(単位となっている。)

(委員)

「わたしたちの研究室」の審査委員を務めたが、各作品とも甲乙付けられないほどレベルが高く素晴らしかった。上位者は、考古博物館の土器作り教室に以前参加していたり、学芸員の指導を受けた経験があるようだ。考古博物館の活動が役立っており、これまでの長い努力に拍手を送りたい。

古代の衣装については、普段は見学できないようだが、展示も考えたかどうか。

(事務局)

既に3セットを作成したが、主たる目的が学校教育での利用ということもあり、なるべく学校への貸し出しを優先させている。貸し出していない期間は、イベント等の中で、一般の方々にも試着できる機会を作っているところである。

(委員)

考古博物館の運営には、考古博物館協会のボランティアの方々の目に見えない働きがあることを紹介したい。

ところで利用者統計には、出前支援事業は含めていないのか。

(事務局)

考古博物館では手が回らないので、埋蔵文化財センターが出前支援事業を実施しているため、従来から考古博物館の実績としてカウントしていない。

協会には、行政との車の両輪としてご協力をいただいているところ。現在、会員を募集中なので、是非、お声かけをお願いしたい。

(委員)

「わたしたちの研究室」の表彰式の開催日が、「山日YBS席書き大会」と同日だったため、日程を考慮していただけるとありがたい。

また、平成25年1月から始まる「国民文化祭・やまなし」の取組みに合わせて、今から集客に向けてアピールしたらどうか。

(事務局)

表彰式の開催日については、他のイベントとの調整し、なかなかタイトなスケジュールの中で決めた点を、ご理解いただききたい。

国民文化祭との連携については、史跡文化財セミナーを文化祭の時期に合わせて追加開催するよう企画しており、その他にもできるだけ連携を図っていくつもりである。

(委員)

県外の学校の利用が増加している原因は何か。

また、展示品のレプリカの貸し出しを行ったらどうか。

(事務局)

東京周辺の学校の間で、口コミで情報が広がっているようである。当館が甲府南インターチェンジの近くにあり、東京からの利便性が高いことも要因。今年も、東京近郊の市町村教育委

員会や学校に職員が直接出向き、PRをして来たところである。

一方、県内の学校の利用は伸び悩んでいる。

レプリカの貸し出しについては、埋蔵文化財センターの資料普及課が、土器等の遺物の教材用レプリカを持ち出し、学校での出前支援事業を実施している。

また、国庫補助を受け、この3年間で貸し出し用のキットを新たに3種類作成したところである。

(委員)

古代衣装については、大人も興味を持っているようなので、サイズが色々あれば、多くの方がもっと楽しめるのではないかと。

ところで、「わたしたちの研究室」の団体研究部門の優秀賞が該当なしの理由は何か。

研究内容のレベルの向上はいいことであるが、子ども達ももっと発表できる機会が増えればいいと思う。作品には、少しでもいい点を見つけて審査をしていただきたい。

(事務局)

団体研究部門の優秀賞に該当がなかったのは、応募件数が4件しかなかったためである。

(委員)

主催事業の参加者の増加理由は、イベントの開催回数が増えたことによるものか、それとも参加人数そのものが増加したのか。

(事務局)

確かに、イベントの回数を増やしていることが影響していると思う。

ただし、これには限界があり、これ以上増やすにはスタッフの人員増が必要になる。

(委員)

公園のテニスコートまで利用者数の集計に入れているが、博物館の事業には馴染まないのではないかと。

(事務局)

考古博物館は、曾根丘陵公園内の風土記の丘研修センター、テニスコート等の一部の施設の管理を知事から委任されており、博物館活動の一環と捉え、従来から県の各資料において算入してきたところ。今後は、当協議会の資料上では、別掲として記載する。

(委員)

以前からも述べているが、銚子塚古墳や丸山塚古墳の見学者を何とかカウントできないものか。せっかく素晴らしい史跡があるのにもったいない。

(事務局)

赤外線カウンターを導入する方法も考えられるが、なかなか難しいというのが現状。

(委員)

育成会等と協働して事業を実施したらどうか。

(事務局)

ご指摘のとおり、学校単位だけではなく、地域の子どもクラブやスポーツ少年団等のレベルで働きかけをもっと行っていくべきであると考えます。

○ 平成24年度予定事業に関する質疑等

(委員)

大学や他の博物館が保管している県内の出土品をもっと借りてきて展示したらどうか。

(委員)

出土当時は、県内に適当な収蔵施設がなかったため、他の施設に持ち込まれたものもあり、既に時効になってしまったものもある。考古博物館では、精巧なレプリカを作成して展示しているが、本来は逆ではないだろうか。

(事務局)

以前、ある施設に山梨県内の出土品の返還を要望したところ、一つ認めて先例をつくってしまくと、他の県に対しても同じように返還しなければならないと断られた。

予算の制約もあるが、貴重な出土品についてはレプリカを少しずつ作り、展示している。

また、里帰り展示等で県民の皆さんに本物が目に触れられるよう対応している。